

平成 28 年度 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

日時	平成28年 8 月16日(火) 午後 1 時30分～午後 3 時45分	場所	本庁舎 3 階 大会議室
出席者	推進会議委員	内田委員（中京大学経済学部客員教授）【座長】 山本委員（清須企業懇話会幹事） 野村委員（愛知県教育委員会文化財保護室室長） 北山委員（愛知県立新川高等学校校長） 舟橋委員（愛知医療学院短期大学学長） 山田委員（中日信用金庫理事長） 平野委員（日本労働組合総連合会愛知県連合会尾張中地域協議会副代表）	
	清須市	企画部長、事務局	

1 開会（企画部長あいさつ）

- 新たな委員の紹介（事務局・蔵城副主幹）

2 議題

- (1) 地方創生先行型交付金充当事業に係る KPI 検証について
- (2) 清須学推進事業について

①地方創生先行型交付金充当事業に係る KPI 検証について	
山本委員	観光誘客促進事業について、現状のままで総合戦略の KPI を達成できるのか。アジア圏の取り組みについて検討の余地がある。コラボイベントなどマスコミにうまく取り上げてもらえるような情報の出し方がポイント。マスコミ経由で住んでいる街の情報に触れるとシビックプライドの醸成にもつながる。また、アンケートは Web 上で行えるとよい。
野村委員	インバウンド観光客の一番の不満は、Wi-Fi 環境の未整備。その点を清洲城はクリアしたので、今後効果を上げていける施策。ただし、多言語の情報発信で、なぜフランス語なのか等疑問もある。県で公表しているインバウンドに係るデータ等も活用されたい。なお、資料館入場者数は、7 月時点で約 4,800 人となり、年間 7,000 人を達成できそう。
北山委員	子育て中の母親の孤立感、子供が成長しても消えないので、対処が必要。個人的には昨年度清洲城を 5 回訪れたが、外国人はよくお会いするので、もっと入場者がいる印象。本校の生徒が海外留学先で現地の方と話すために、地元の歴史の知識は必須だと思う。
舟橋委員	キヨスマはよい取り組みだが、認知度が低いので、もっと周知方法を工夫するべき。観光はまず清洲城周辺で飲食できるよう、滞在時間を延ばすことが重要。朝日遺跡の資料館についても週休 3 日は多く印象。
山田委員	「感動」をテーマにするべき。若い世代の考えていることは、我々の想像以上のペースで変化していることを踏まえ、何を対象にどういう目的で行う事業かを考えて数字（指標）を分析するべき。観光客目線で外から見た清須の印象も教えてもらうことが大事。
平野委員	いずれの事業も基本的には KPI の目標を達成しているが、80%台が満足している一方で、残りの 10%台の不満足についてもしっかりと受け止めて分析してほしい。

【内田座長総括】
<ul style="list-style-type: none"> 概ね総合戦略の KPI 達成に有効な事業として評価できる。ただし、数値に拘らず、内容の充実に努めてほしい。 子育てアプリは利用者間で情報交換できるとさらによい。また、定住化を視野に入れれば未婚女性への PR は重要。子育て支援は他団体の類似の取組との差別化がポイント。ダウンロードしてもらいハードルを下げるには、当初の入力情報をなるべく少なくするとよい。 インバウンド戦略は、高山の例を参考に、アジア圏のインバウンドを取り込むことも検討してはどうか。清洲城周辺の滞留時間を延ばす取組みができれば、Wi-Fi アクセス件数は自然と上がる。最初の印象が大切なので、また来たいと思われるエリアづくりが必要。また、高校生が外国人を案内できれば、英語教育やシビックプライドの醸成にもつながる取組みだと思う。

②清須学推進事業について	
山本委員	ターゲットとして、学校の教職員を取り込むことは大変重要。教職員は若い世代にアプローチできる上に、生徒は毎年入れ替わるので効果が大きい。
野村委員	特に小中学校の教職員の取り込みが重要。県では朝日遺跡の副教材を作製して、学校へ配布予定である。講座は当面学卓中心で進めつつ、将来的にはワークショップを実施してもよい。朝日遺跡の新資料館はもっと入場者に利便性のある体制で臨みたい。
北山委員	学校目線でいうと、マイスターは外部人材であるほうが効果が大きい。ただし、講座の受講は勧めたい。本校の「総合的な学習」の地域探求については、マイスター認定者の方に最優先でご活躍いただきたいと考えている。できれば、テキストはデジタル化してほしい。
舟橋委員	講座やシンポジウムは教職員にも勧めたい。将来的には本学の教養演習にマイスターの方や朝日遺跡の学芸員の方に来てもらいたい。
山田委員	「感動」が大切であることを再説したい。ガイドの方の肉声は心に届く言葉が多い。講座の進め方については、フィールドワークが大切。
平野委員	受講生の 40 名という枠組みは、どの程度の手応えで設定されているのかは気になる。マイスターはあくまでも合格基準を超えていれば合格なのか、10 名という枠が優先されるのかイメージを共有したい。

【内田座長総括】
<ul style="list-style-type: none"> 学校の教職員を巻き込むことは重要。とりわけ、まだ志向が固まっていない小学生と地元目向ける大学生（短大生）を対象にすることが有効。 マイスターの認定方法として、試験という手法はやり方として重たくなる。問題設定や合格水準の設定について、講座修了試験は低く、マイスター認定試験は高く修正する余地があるのではないかと。 教材のデジタル化は可能であれば対応すべき。 清須は地域資源が豊富なので、有効活用すれば定住化につながられる。

3 閉会